

1 研究の概要

(1) 研究主題

自分の「思い」を基に、表現を追求する児童の育成
—〔共通事項〕を支えとした見方・考え方を広げる造形活動の工夫—

(2) 研究主題設定の趣旨

現行の小学校学習指導要領において、図画工作科の目標に「感性を働かせながら」の文言が追加されました。「感性」とは、「様々な対象や事象を心に感じ取る働きであるとともに、知性と一体化して創造性を育む重要なものである」^①と学習指導要領解説に記されています。「感性」を働かせることで生まれる気付きや感動、意欲は、児童の主體的な造形活動への大きな推進力となります。

国立教育政策研究所が平成25年に小学校第6学年児童を対象に行った「小学校学習指導要領実施状況調査（図画工作）」では、次のような課題が報告されています。①形や色、動きや奥行きなどの複数の造形的な特徴をとらえ、それらを基に自分のイメージをもつこと、②想像したことから表したいことを見つけて表すこと、③作品から得た自分の印象や情景、全体的な感じなどを、形や色、動きや奥行きなどの複数の造形的な特徴を根拠に説明することについての課題です。

これらの課題を解決していく手掛かりとして、児童への「質問紙調査」の回答の分析結果に着目します。それは、想像したことを絵に表す問題を通過した児童や、作品などを鑑賞する問題において平均通過率以上の児童は、非通過・平均通過率以下の児童に比べて、〔共通事項〕に関する質問内容（形や色、動きや奥行きなどをとらえ、それらを基に自分のイメージをもつこと）に対して肯定的な回答をしている傾向にあること、また、鑑賞に関する質問に対しても肯定的な回答をしている傾向にあるということです。

図画工作科の学習は、「表現」と「鑑賞」の二つの活動によって行われますが、それらを支える資質・能力が〔共通事項〕です。〔共通事項〕は、「児童自らの感覚や活動を通して形や色をとらえること」と「児童が自分のイメージをもつこと」の2つの指導事項に整理されており、児童の活動を具体的にとらえるための大切な視点となります。「表現」と「鑑賞」の指導において、この〔共通事項〕がどのような場面にも含まれている事項として捉え、指導や評価をしていくことが求められています。

教科書の〔共通事項〕の扱われ方について、久保村里正は、〔共通事項〕との関連性は鑑賞題材の割合が高いと分析しています。表現活動が中心となっている図画工作科のカリキュラムを考えると、表現題材と〔共通事項〕とを具体的に関連付けた授業法の開発が必要なことを示唆しています。

そこで、本研究では、表現題材において、〔共通事項〕を支えとした見方・考え方を広げる造形活動の工夫を行うことにします。形や色などの造形的な特徴を基にした見方・考え方を広げることを通して、自分の「思い」を基に、自分の表現を主体的に追求する児童の姿を目指し、本主題を設定することにしました。

(3) 研究のねらい

本研究では、〔共通事項〕を支えとした見方・考え方を広げることを通して、自分の「思い」を基に表現を追求する児童の育成を目指します。

そのために、児童の「思い」を大切に学習過程を設定し、〔共通事項〕の中の形や色に着目させる言語活動の工夫を行います。形や色という造形的な特徴を基に思考したり、表現したりすることを通して、児童は対象に対する造形的な視点で捉える見方・考え方をもち、自分の表したい「思い」を具現化し、自分らしい表現を追求していくことができると考えます。

(4) 研究の内容と方法

- ① これからの図画工作科の方向性や、造形的な特徴を基にした見方・考え方、図画工作科の言語活動の在り方について、文献や先行研究による理論研究を行いました。
- ② 表現活動における児童の意識調査を実施し、その結果を基に実態把握を行い、主体的な造形活動を引き出すための学習過程の構築、造形的な視点で捉える見方・考え方を働かせる手立てを明らかにしました。
- ③ 4年生での検証授業及び考察を通して、手立ての有効性を探りました。

《引用文献》

- (1) 文部科学省 『小学校学習指導要領解説 図画工作編』 平成20年8月 p. 7より引用

《参考文献》

- ・ 国立教育政策研究所 『小学校学習指導要領実施状況調査 教科別分析と改善点（図画工作）』
平成27年2月
- ・ 久保村 里生 「小学校図画工作科における〔共通事項〕の現状と課題」『文教大学教育学部紀要』 2015年